



カテゴリー

- ▶ 日露青年招聘・派遣事業
- ▶ 日本語教師派遣事業
- ▶ 若手研究者等FIR-シップ事業

活動レポート | REPORT

[活動レポートTOP](#) > [日本語教師派遣事業](#) > 詳細

日本語教師派遣事業

日本語教師派遣大学紹介

A.M.ゴーリキー記念ロシア国立ウラル大学（野口誠教師）

《大学紹介》

ロシア屈指の重工業都市・スヴェルドロフスク州エカテリンブルグ市（人口約140万）で最高レベルの学力と規模を持つ大学です。国際関係学部東洋学科および哲学部社会言語学科において、総勢50名ほどの学生が日本語を学んでいます。

エカテリンブルグはロマノフ王朝最後の皇帝・ニコライ2世の終焉の地であり、エリツィン元大統領の出身地としても知られます。また「世界一マヨネーズを消費する街」としてギネスブックに載るといふ、変わった一面も持っています。

【大学正門】メインストリート「レーニン通り」に悠然と位置しています。内装も天井が高く豪華な造りです。



《印象に残る体験》

私の誕生日である12月30日に、「カレーパーティー」をしました。

調理準備は学生たちも手伝ってくれました。意外に男子も、手際がいい。お菓子やおかずやケーキもリズムよく出すし、なんかパーティー慣れしています。

もともと、前期最終日の12月30日は、うちの大学ではパーティになる日取りらしいです。

初級中盤レベルの彼らなりに、たどたどしい日本語で祝辞を述べてくれたり、律儀にケーキに年齢のふんのろうそく(30本超…)立ててくれたり、なんて良い奴らなんだ、キミたち。

極めつけは、普段はとてもおとなしい、ある男子がメモ片手に「歌います」と…。日本語で歌い始めたので聞いていたら、どこかで聞いた、青臭い歌詞。これは…

「…なんで知ってるんですか、One Pieceのアニメの、いちばん新しい歌!？」

彼が歌い終わって拍手を贈った後、思わず日本語でコメントしてしまいました。

私が人気マンガ「One Piece」のファンであることは、授業のネタも兼ねてことあるごとに学生に触れ回っていたのですが…。事情を(日本語で!)理解して、室内が爆笑の中、サプライズの成功にひとり「してやったり」の表情の彼。

テストで忙しいこの時期に、とりあえずリズムを合わせるレベルになるまで歌を練習するとは…感動しました。



【寮の窓からの風景(昼・夜)】



大学から3kmほど離れた場所に位置する、寮の窓(8階)からの眺め。正面の建物はウラル大学の別館です。

経済法律人文学院(クラスノダール)(宮崎さとみ教師)

《大学紹介》

経済法律人文学院(通称イネップ)の東洋学部では現在第一外国語として日本語、中国語、ペルシャ語を勉強している学生がいます。小さい大学なので学生はみんな仲が良く、先生やスタッフもおおらかでアットフォームな雰囲気です。日本語を勉強している

学生は日本に行ったことがなくても、日本人が周りにいなくても、日本に大変興味を持ち、楽しんで日本語の授業を受けています。全学年に日本語のグループがありますが、派遣教師が担当しているのは2～4年生です。



【2年生】
女の子ばかりとても仲の良いクラスです。お互い助け合って楽しく授業を受けてくれています。明るく元気な学生達で授業中は笑いが絶えません。

【3年生】
勉強熱心でよくできる学生が多いクラスです。日本文化に関する興味もそれぞれあって、自分の好きな分野なら何でも知っています。いろいろな手段で授業外でも自分で日本語を勉強したり、日本文化に触れているようです。



【4年生】
とても親切で人懐っこい学生たちです。ロシア語がわからない私のためにいつも進んでいろいろなことを手伝ってくれます。他に日本人がいない環境でも頼りになる学生たちです。

《東洋学部祭》

東洋学部祭ではそれぞれの学年が出し物をします。

他の言語を勉強している学生たちと一緒に学年一つになってパフォーマンスをするのをとても楽しんでいました。

【2年生】
インド映画のパロディ。ダンスがとても上手でした。



【3年生】
影絵の劇。アラビアンナイトの雰囲気がでていてきれいでした。

【4年生】

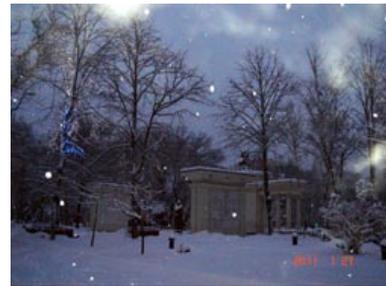
カフエドラの先生たちのまねをして授業を再現。ロシア語はわからないけど、しぐさや話し方がとても似ていて面白かったです。





私も教師の劇に参加。中国語の先生、韓国人の大学院生とそれぞれの民族衣装を着て3人姉妹の役をしました。

暖かいといわれているクラスノダールにも1月には雪が降りました。まだ残っていたお正月のライトアップと積った雪がとてもきれいでした。



タタール国立人文教育大学(前田朝子教師)

《大学紹介》

タタール国立人文教育大学はタタール自治共和国カザン市にあります。カザンはロシアの中でも独特な場所で、ロシア人とタタール人が半分ずつ住んでいるため、文化的に西洋と東洋がミックスしているのが魅力です。大学がたくさんある比較的大きい町で、大学で勉強するために近くの小さい町からたくさんの学生が親元を離れ、一人でカザンにきています。

日本語は外国語学部東洋言語学科に所属しており、英語教育を専門としている学生たちの第二外国語の科目の一つとして扱われています。第二外国語といっても、学生たちは2年生のときから日本語を学び始め、5年生までの4年間習います。5年次には教育実習も行われます。

カザンには今日本人が私一人しかいないので、学生たちは日本語を勉強してもなかなか使う機会がありません。それでも、日本の文化やアニメに興味を持った学生たちが、ゆったりペースで授業を楽しんでいます。笑顔がたくさん出る素直でいい学生たちばかりです。



《印象に残る体験》

カザンではじめての授業の日、「おはようございます」と言って教室に入っていったら、10数人いた学生の誰一人も返事をしませんでした。もうすでに去年一年勉強して、みんなの日本語20課まで終わっているという報告を受けていたので「おかしいな」と思いながら、「はじめまして。前田です。」と言っておじぎをしました。すると、一人の女子生徒が英語で「私たちは日本語を使ったことがないから、ごめんなさい。グッドモーニング。」と言いました。

カザンには今日本人が一人しかいません。つまり、学生たちは1年日本語を勉強してはいたけれど、私の初授業の日が彼らにとって実際に日本語で挨拶したり自己紹介したりする初めての機会だったということに気がつきました。それは挨拶ひとつするのにも勇気があるわけです。このような場所で、日本にいる留学生や他の日本語教育が盛んな地域の学生が使う教科書を使い、同じように授業をすることに意味があるのかと悩みながら、毎回授業以上のことができないか試行錯誤しています。

カザンの学生たちにとって私が「THE日本」になってしまうので、できるだけテーマや話し方が偏ることのないように気を使っています。また、幸運なことに私の教えている大学は男子学生も多いので、やはり口調や選ぶ言葉にも気を使っています。何せ他に生で日本語を聞くチャンスがないのですから。



《スピーチコンテスト》



ノヴォシビルスク国立工科大学(井本美彩子教師)

《大学紹介》

ノボシビルスク工科大学では1年生から5年生まで約60人の学生が日本語を学んでいます。

留学生も多く、2年生のクラスでは3分の1が中国人留学生です。

《印象に残る体験》

俳句を学生と作ったこと。

卒業試験に合格することが最上級の学年では中心となっていますが、せっかく言葉が身につけてきたのに知識を覚えることが中心となっているのが残念だと思い、俳句を作ってもらいました。言葉はその人自身の表現だと思うので、表現手段としての日本語として表現されたものから、学生のことを知りたいし、その表現のおもしろさを知ってほしかったのです。

学生の使う言葉のセンスが興味深くて、日曜日、何もすることがなく時間の過ぎていく様をコーヒーの泡、で表現したり、人間の孤独を山と天の距離で表現したり、とその人が少し垣間見える時間となっておもしろかったです

その一部をご紹介します。現代版万葉集のようです。

- ★ 冬が来た 雪がくれた木天使の羽
(シベリアの冬の中、人々は帰り道を急ぐけれど、私には雪の中に立つ木が天使の羽に見えてこの冬をゆっくりと楽しんでいる)
- ★ 冬の夜 熱すぎる記念 漲れる
(こごえるような寒い冬の夜、今日も傍らに彼女のぬくもりを感じ、その愛が私の中でみなぎっている)
- ★ 山と天 近づくほどに 人と人
(高くそびえ立つ山でも空の間には果てしない距離があるように、近づけば近づくほど、人には決してわかりあえない孤独がある)



カテゴリー

- ▶ 日露青年招聘・派遣事業
- ▶ 日本語教師派遣事業
- ▶ 若手研究者等フォローアップ事業

活動レポート | REPORT

[活動レポートTOP](#) > [日本語教師派遣事業](#) > 詳細

日本語教師派遣事業

日本語教師派遣大学紹介

モスクワ市立教育大学(須藤展啓教師)

《大学紹介》

2007年に日本語学科を開設。現在は1年生から4年生までの学生たちが日本語を学習しています。学生は全員がモスクワ市内かその近郊に住む「モスクワっ子」です。



筑波大学の皆さんが訪露して、文化交流をしました。



大学近くの映画館でJ-POPフェスティバルがありました。これはファッションショー。モデルは学生さん達。



学科交流の日。ゆかたの着方も教えしました。日本文化紹介で、招き猫の意味を説明しています。

学食で。みんなでお茶を飲みながら日本語の宿題をやっています。

モスクワ市1388番学校(須藤展啓教師)

《学校紹介》

モスクワ市の西側、ミチノ地域にある学校です。第2外国語として日本語を勉強中です。大学の教育実習もここで行っています。



《印象に残る体験》

弁論大会の指導が最も印象に残った出来事です。

出場希望者が締め切り前日まで原稿を書かず、ギリギリ間に合って練習を始めてもあまり身を入れて取り組んでくれず、発表日間近になっても発表できる状態ではなかったので、同僚の教師に「弁論指導、正直困っています。今回はあの学生は出場を見送った方がいいのではないのでしょうか」という旨のメールを送ったつもりだったのですが、あろうことか宛先を間違えて出場者本人にそのメールを送ってしまいました。するとその学生はやっと焦りの気持ちが出てきたのか、私の苦悩を理解してくれたのか、あるいは単にプライドを傷つけられてぶっさされたのか、翌日から見違えるように一生懸命練習するようになりました。大学で夜遅くまで練習し、うまく言えない箇所があったりして時には泣いたりすることもありましたが、その成果が出て当日は非常に良いスピーチができました。

スピーチ後にその学生からもらったチョコレートと感謝のメールがとても嬉しかったです。

ロシア国立ゲルツェン名林教育大学(瀧澤唯子教師)

《大学紹介》

Санктペテルブルク市に所在し、英語を専攻とする学生が副専攻として2年次から日本語を学習します。選択できる東洋語には日本語のほか、中国語、韓国語、アラビア語があり、履修希望者数によって開講されるかどうか決まります。



Санктペテルブルク国立大学(豊嶋美晴教師)

《大学紹介》

- ・ Санктペテルブルク国立大学 東洋学部 日本学科
- ・ 日本学科は1889年に設立され、およそ120年というたいへん古い歴史を持っています。
- ・ 現在、大学1年生から6年生(5,6年生は日本の修士課程にあたる)までおよそ100名の学生が日本学科で学んでいます。彼らの専門は日本語だけでなく、日本の歴史や経済、文化、文学など多岐にわたります。
- ・ Санктペテルブルグは広いロシアの中で、日本からは遠く離れた街ですが、人々の日本に対する関心は驚くほど深いものです。そして学生たちは日本に対する興味と、ある意味尊敬の念のようなものを持って勉強をしてくれています。それはとても喜ばしいことであり、同時にその気持ちに応えていけるような交流を続けていかねければと思います。



写真左下に見える木の扉が大学の入り口。この赤い建物は1742年に建てられ、かつてはこの中に各参議会(省)が入っていました。現在は大学の教育機関が入っていて、“120の学院”と呼ばれています。



大学中庭、初夏の様子(日本学科の窓から)

同じく大学中庭、冬の景色

授業中の様子。ペアになって会話を作る学生たち。みんなオリジナルの面白い会話を作ろうと、いつも真剣に取り組んでいる。



授業中の様子。自分の好きなテーマについて発表する授業で、このときは「サバイバルゲーム」について学生が発表し、実際にゲームで使うモデルガンを持って来て、クラスメートたちに説明していた。この写真の教室が日本学科の教室。



授業中の様子(特別編?)。冬が長い Санктペテルブルグでは、寒くて暗い日が続く。この日はようやく春が来て久しぶりに天気の良い日で、学生たちが「外で勉強しよう!」とせがまれ、特別に外で授業をした。



大学の目の前にはネヴァ川が流れる。厳しい冬の間はネヴァ川が凍る。川の向こうには



凍ったネヴァ河とクストカメラという博物館。大学はこの博物館のすぐ向こう側にあ

エルミタージュ美術館が見える。

る。

アムール国立人文教育大学(金武雅美教師)

《大学紹介》

アムール国立人文教育大学は、2010年度からの新規派遣校です。ロシア極東のハバロフスクから400kmほど北に位置するコムソゼリスク・ナ・アムール市にあります。アムール川下流にあり、冬はマイナス30度以下にもなる厳しい地域ですが、街の人々はとても親切で人の温かさを感じるのどかな町です。

アムール国立人文教育大学は教育学部以外にも科学、スポーツに力を入れていて、特にボクシングでは数多くの賞を受賞しています。

現在、日本語教師はロシア人教師1名と私1名です。日本語は第二言語として教えています。日本語の学生は全体で約30名。卒業後、日本語の先生になる学生もいます。ほかにも夜間の市民講座で高校生や社会人の皆さんが一生懸命に日本語を勉強しています。みなさん日本の文化にとても興味があり、学生と授業で書道をしたりお団子を作ったりお寿司パーティーをすることもあります。

まだ始めたばかりですが、日本の大学との交流活動も行っています。年末にはみんなで年賀状を書いて、日本の学生に届けました。今後も更に日本語や日本文化に興味を持ってもらえるように活動の幅を広げていきたいと思っています。



《印象に残る体験》

赴任して間もなく、朝の授業をいつものように始めようとして学生たちが急に「おめでとうございます！」といって、カードや花束、チョコレートをプレゼントしてくれました。その日は「教師の日」といって、学生から先生に感謝の気持ちを伝える日でした。知り合ってから日の浅い私にも気遣ってくれる学生のやさしさに触れ、とても感動しました。



極東連邦大学国際関係大学(西川華代子教師)

《大学紹介》

極東連邦大学国際関係大学は、皆第二外国語として日本語を勉強していますが、楽しんで勉強しようとしている学生が多いように思います。日本への短期留学経験者や旅行経験がある学生も多いです。



4年生です。女の子が多いのでおしゃべりが多いのが玉にキズです。

2年生。とても活気のあるクラスです。



ハバロフスク国立経済法律アカデミー(山田百合子教師)

《大学紹介》

ハバロフスク国立経済法律アカデミーは、ハバロフスクにおいて文系で一番のレベルを誇る大学であり、多くの優秀なビジネスパーソンを輩出している大学です。貿易や銀行業務に携わる本校の出身者も多くいます。

日本語教育は第一外国語として位置づけられ、「外国語でビジネスコミュニケーションがとれるエコノミストの育成」を求められています。

